

次代を担う子どもたちをはぐくむ
木の香りいっぱいの保育所誕生

ひのっこ保育所

「自慢の保育所だよ。いいでしょう」と笑顔いっぱいの園児たち。ピカピカの園舎に大喜びで、さっそく広い遊戯室ではしゃぎ回っています。
よりよい環境で充実した保育をしようと、昨年7月から津地地内（町運動広場隣り）



広い遊戯室で走り回る園児たち。やさしい日差しが注ぎ、木目の床や壁に反射する。この場所は園児たちに大人気



子育てを応援



3月7日の開所式。園児たちが元気な声で歌って祝う



保育所は自然に囲まれた場所に。日野の山々が見守る

Interview



日野町長 梅林 豊

子どもは地域の宝です。将来を担う人としての第1歩を形成する場とし、安心してあずけていただけるよう様々な点に配慮していきます。子どもたちの健やかな成長を願います。



ひのっこ保育所保護者会長
小林 博文さん(舟場)

保護者が待ち望んでいた新保育所が完成し喜んでいきます。木の温もりが感じられ、明るくとてもいい環境です。たくさん子どもたちがすくすくと育ってくれることを願います。



ひのっこ保育所さくら組
山田 愛華さん(貝原)

新しい保育所は、とても広くて部屋の中でもおもいっきり遊べます。木の香りがすごくいいにおいです。毎日、来るのが楽しみです。いっぱい遊びたいです。

3月7日には開所式が行われ、園児71人は、さっそく新しい保育所での生活をスタートさせました。園児たちに感想を聞くと「木の香りがいいにおい」「広いのでいっぱい遊べてうれしい」「裸足でも冷たくないよ」「ここに来るのが楽しみ」と笑顔いっぱい保育所を自慢していました。

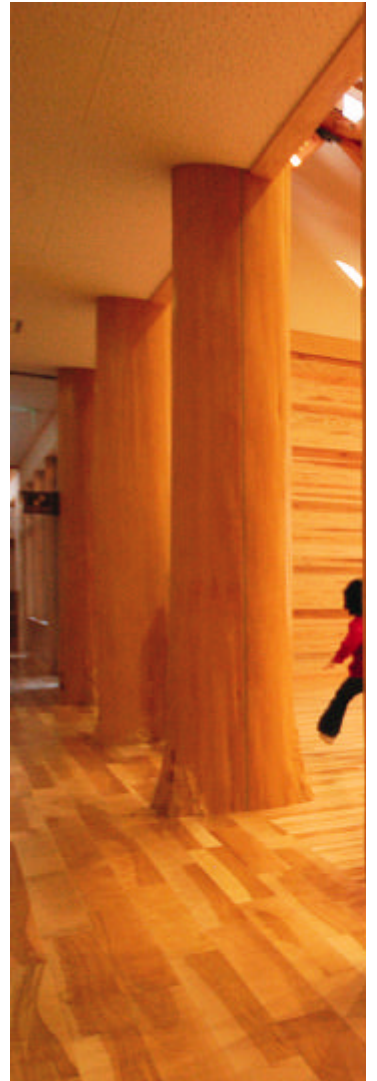
に工事を進めていた根雨保育所と日野保育所の統合保育所「ひのっこ保育所」の園舎が2月28日に完成しました。3月3日には関係者らによる竣工式が行われ、4日には建物内を一般公開し、多くの人が見学に訪れました。

ひのっこ保育所(定員90人)は、町内のスギやヒノキをふんだんに使い、細部にわたり木にこだわっています。建物は南側に面し、やさしい日が差し込んできます。建物の中にいると木の温もりを感じ、やさしい気持ちになり、心まで明るくなります。広々とした遊戯室には5本の大きなスギの柱。子どもたちも

ち3人で抱きついても届かないほど大きな物が使われています。保育室(2歳から5歳児)が4室、乳児室(0歳児)はふく室(1歳児)、もく浴室(子育て支援室、調理室など木造平屋建の約998平方メートル)広い園庭にはブランコ、ジャングルジムなどの遊具やプールもあります。

建物は、床の段差をなくしたり点字ブロックを敷くなどバリアフリー化、シックハウスの対策に有害物質を含まない材料を使用。耐震性にも優れています。深夜電力利用による経費の削減も図り、限られた予算の中で最大限の効果が上がるよう造られました。子どもたちが、保育所に来ることを楽しみにし、自慢できる建物(事業費2億7608万9千円)が完成しました。

新保育所は建物もすばらしいですが、周辺の景観も良く、目の前には清流「日野川」が流れ、国立公園「宝仏山」(標高1005m)や日野の山々を望める場所にあります。この自然豊かな環境が「ひのっこ保育所」の名称(黒坂小4年・矢田貝春奈さん命名)のとおり、まちの子として、すくすくと育ててくれると思います。



新しくできた子育て支援室